

公民館
通信

No.324
2026.3 発行

たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

ひと♡ネットワーク



太鼓でつながる



和太鼓 ^{こお}せいせき鼓桜

代表 栗原 ^{ひさつね}尚恒 さん 事務局 佐藤 学 さん

今年で結成 20 周年。年明け 2 日、聖蹟桜ヶ丘駅前での新春演奏から始まり、正月行事「どんど焼き」では、多摩第一小学校と東寺方小学校の 2 か所で演奏。2 月「VITA ふれあいまつり」、4 月「せいせき桜まつり」と続く。この桜まつりでは、観蔵院と九頭龍公園でオープニングを担当。力強い太鼓の音が、祭りの始まりを告げる。年間おおよそ 20 公演。7 月 5 日には、パルテノン多摩で 20 周年記念公演を企画している。

鼓桜結成のきっかけは、22 年前。我が子たちが通っていたやまと保育園の秋祭りを盛り上げようと、保護者有志が太鼓に挑んだこと。呼びかけた栗原さん、社会人になるまで太鼓とは無縁だったそうだ。他市の児童館で職員として働いていた 25 歳のとき、子供たちと一緒に太鼓を叩き始め、今では作曲をするまでに。鼓桜のオリジナル曲は他のメンバーの作曲も含めて 20 曲近いというから、驚きだ！ 現在、代表として約 50 人をまとめ、毎週日曜日の 9～17 時まで練習。土曜日も

月 2 回、和太鼓ワークショップを開催する。2 月のワークショップには子供 21 名が参加。小学生、大人に混じって幼児、支援学級の子供、韓国や台湾の子供たちも参加し、大賑わいだったそうだ。唯一の楽しみはサッカー観戦。「太鼓のこと考えない休みが欲しい」と笑う。

「栗原さんにはめられた！」と苦笑いする事務局の佐藤さん。「VITA ふれあいまつり」実行委員会では、昨年まで 4 年間実行委員長を務めた。仕事は鍼灸師。中学生時代には「音楽なんて一生やらなくていい」と決めつけていたようだが、今では太鼓ばかりか篠笛にも挑戦。さらには PC で曲作り。体力作りでウルトラマラソンにも挑戦し、「色々やることは人生の中で役に立つ」と自信を持って言い切る。

お二人とも、お嬢さんは当時の園児。夫婦、親子揃って鼓桜のメンバーだ。今年 3 月には初めての海外演奏でホノルルに。大好きな太鼓で、大好きな「せいせき」に元気と笑顔を届けていく。

この一年「ひと♡ネットワーク」に登場された方たちより

この一年もいろんな出会いがありました。「たのしいまち」の顔として、「ひと♡ネットワーク」に登場して下さった方たちに登場秘話・その後のご様子を教えていただきました。

- ① 表紙に出られた感想や反響を
- ② 記事への補足、新しい取組や今後の構想など
- ③ 公民館や『たのしいまち』について一言



山澤ほなみさん
(Almonde Musica
あるもんで音楽する代表)
(2025/4月号)

- ① 反響ありました。なんか気恥ずかしい。
- ② 福祉亭の子ども食堂で定期的にエコベル遊びをやり始めたり、演奏の機会も増えてたりして、輪が広がってきています。
- ③ 多摩はほんとにいい街♡すてきな人がいっぱい♡これからもそんな街の魅力を伝えていってください。



高橋さん 志賀さん 橋満さん
(TAMA COFFEE CLUB) (2025/10月号)

- ① 多くの方から声をかけていただき、メンバーたちも喜んでくれ、活動を振り返る良い機会になりました。チームの雰囲気まで伝わる紙面に仕上げてくださいましたことが嬉しかったです。
- ② それぞれの得意を持ち寄り、支え合いながら活動を続けています。練習やイベントを重ねるたびに新しい出会いが生まれ、つながりが広がっていく実感があります。これからも仲間とともに、コーヒーを通じて人が集まり、ほっとできる場を育てていきたいと思っています。
- ③ 公民館は、学びと出会いが自然に生まれる温かな場所だと感じています。「たのしいまち」は地域の思いが丁寧に紹介されていて、読むたびにまちの豊かさを再発見できます。今回の経験を通して、公民館が活動の芽を大切に育ててくださっていることを実感しました。



三吉 啓司さん (2025/12月号)
(TAMA 映画フォーラム (TCF) 実行委員会)

- ① 発行以来、同じマンションの方に道で出会ったとき「見ましたよ。ご活躍されてますね。」と声をかけられ、「お恥ずかしいです」と応じると、隣にいた妻も「お恥ずかしいです」と頭を下げていました。(コラ、コラ)
- ② 記事の中の「懐が深い」とは、「スタッフの一人一人が、自分の得意なことや好きな分野で頑張っていて、それぞれに力を発揮して貢献している」ことを指して言っています。
- ③ フォーラムに入会するまで公民館とは疎遠でしたが、様々な方が楽しそうに活動していらっしゃる姿を拝見する機会が多くなりました。一人一人が、自分の好きなことで交わり自分を表現するのは大事なことで、また美しいと思います。



石本 寛子さん
(むすび芽 代表)
(2025/7月号)

- ① 子ども達が幼少の頃から公民館に来るたびに読んでいたので、なんとも不思議な気持ちでした。反響も大きく、ママ友達や学校の先生達からも沢山声をかけていただき、応援の言葉をいただけて嬉しかったです。
- ② おかげさまで3つの事業それぞれメンバーが増えてきました。引き続き、凸凹あっても自分の良さを活かしたいと思う子どもや若者の参加・お手伝いをお待ちしています。また、今後は多世代で、自然と赤ちゃんからお年寄りまでが集まり学び合えるような拠点を持つことが夢です。
- ③ 素敵な活動をされている方の話に励まされてきました。私の地域活動のきっかけも、公民館主催の連続講座に参加しサークルが生まれたことがスタート。公民館のおかげで今の私があると言っても過言ではないです！元気を取り戻す人が他にも沢山いると思うので、これからもよろしくお願ひします。



寛 智子さん (2026/2月号)
(グリーンサポートたま 代表)

- ① 数多くある団体の中から私どもを取材していただき大変光栄に思います。スタッフ一同を代表して感謝申し上げます。記事を通じて多くの人が活動に関心を抱いていただけますことを願っています。
- ② グリーンサポートたまは今年の4月で3年目を迎えます。人々のニーズに応えつつ、これからも多彩な活動を展開してまいります。今年度は手作業ワークなども活動に取り入れる予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。
- ③ 『たのしいまち』には有益な情報が満載で特に「ひと★ネットワーク」では様々な方のご活躍ぶりを垣間見ることができ、非常に良い刺激を受けています。

講座レポ

多摩を「ふるさと」にするために

大学生実習生が
講座に行ってきました！



～講演会「地域とつながる“はじめの一歩”～人生100年時代の“自分の活かし方～”より～

施設や団体ではなく、「あなたとわたし」が輝くふるさと多摩への第一歩

1月17日に行われたわがまち学習講座連携企画の一環として牧野教授の地域づくりに関するご講演に参加した。「ふるさとに私は何ができるか」という大きな問いに対し、冗談を交えながら、難しく聞こえがちな言葉の意味を丁寧に噛み砕きながらお話しいただいた。

地域とは、憧れの循環であり、“らしさ”を引き出し合える関係性のことを指す。ただの住民でなく、ちょっとだけカッコいい住民でいたいと思う原動力を、互いを認め合う関係を広げていく中で創っていくのだという。最新の研究成果やコミュニティの具体的な事例を学び、赤べこのように首を振っているうちに講演会が終わっていた。

講演後、ふと立ち止まって考えてみる。頭では理解しているが、学んだことは実践できるのだろうか？大学と家とバイト先といういつも通りのコミュニティでいつも通りの日常を繰り返してばかりではないか…

大きな変化は三日坊主になりそうだから、5分だけ早く起きて頭と身体の余白を作ってみよう。おはようをもう1人に伝えてみよう。誰かにありがとうを言ってみよう。

「今日も寒いですね」の一言で新しい繋がり糸口になるかもしれない。自分と相手の口角をほんの少しだけあげるチャレンジ、今日からしてみようかな。

恩を返すのではなく、次の誰かに手渡していく「恩送り」で地域は繋がっていく。ふるすとは、特別な誰かがつくるものではなく、私たち一人ひとりの小さな行動から始まる。この記事を読んでくださったあなたも、その一員かもしれません。(M)



講師
大正大学教授
東京大学名誉教授
牧野 篤氏



わがまち学習講座って？

多摩市の魅力や抱える課題を広く市民と共有し、学習する機会を提供することで、市民自らが地域に興味を持ち、地域課題の解決に取り組む「新たな担い手」につながる支援・働きかけとなる講座を実施しています。

これたまたMAP 好評配布中！

多摩市ホームページ、図書館の電子書籍で読むことができます！
多摩の魅力を再発見してみたいかがでしょうか？

◎サークル紹介（永山）

「多摩市文庫連絡協議会」



2025年11月文庫展
「科学あそび」の様子

多摩ニュータウンが建設され、子育て真っ最中のたくさんの家族が入居。当時は図書館もなく書店すらバスに乗っていかなければならず、「子どもたちに良い読書環境を」と願った母親達が、団地ごとに文庫を開きました。1981年(昭和56年)初代図書館長の「横のつながりを」の言葉に市内の文庫が集まり、交流と学習の場とすることを話し合い「多摩市文庫連絡協議会」が設立されました。『40周年記念冊子』が図書館にあります。毎月会員の持ち回りで「子どもの本の学習」をメインに、情報交換などを行っています。知らなかった絵本のことや、読んだことのある絵本でも作者の情報など色々学習しています。子どもの本に興味のある方(個人でも参加可)は、ぜひ「子どもの本の学習」にご参加ください。

- ◆日時 毎月第2火曜日 午前10時～12時
- ◆場所 永山公民館
- ◆連絡先 m_yorigami@yahoo.co.jp



ノミの法則 — 永山の楽ちゃん —

コラム え・と・せ・と・ら

【私のざ・い・さん】

春の訪れとともに、新しい、職場・学年・クラスと環境が変化するとき、少なからず、不安を抱えている人も多いだろう。

この40数年の社会人生活の中で、変化（成長!?!）した「私」は、退職という大きな人生の節目を迎え、進学、入学、就職とは違い、これまで、「自分」の経てきた道を振り返り、若かりし頃の“若気のいたり”（注1）を思い出し、ふと、恥ずかしい気持ちが蘇ったり、あんなこともあった。こんなことも経験した。と感慨深く、そんな自分を「よくやった」と、労いたい気持ちが溢れてくる。

希望と意欲をもって、新しい世界に、飛び込んでも「こんなはずじゃあなかった・・・」と悲観し落ち込むこともあった、ある時は、上司・先生・先輩・親などに叱責されただけで、そう 失恋の落ち込みのように、涙が流れてくるだけで、そんな走馬灯のように思い出をたどっていたら、こんな歌が頭の中に流れてくる。

♪い~つのことだか思い出してご~らん、あんなことお~、こんなことお~あったでしょう♪

これは「思い出のアルバム」という歌で、めぐる季節の素敵な思い出をたどって、これからも楽しいことがきっとあるよと新たな1年生におけ、最後に「もうすぐ、みんなはい~ちねんせい」と、締めくくられている歌だ。ちょっぴり寂しいけど、これからもわくわくしたことたくさんあるよという思いが込められているのだろう。

この40数年。思い出とともに、多くの「人」に出会うことができ感謝する。思い出の中に、そして私の引き出しに溢れる私の財産だ。（は）

注1: 若気のいたりとは...
若さにまかせて無分別な行動をとってしまうこと

- 【た】 えて耐えて、やっと
- 【の】 んびりできる日を、
- 【し】 っかりかみしめ
- 【い】 のちつづくかぎり!
- 【ま】 た会いましょう!
- 【ち】 ゃお!



① 2ミリのノミは、30センチジャンプする。
体長の150倍!
(160センチの人間なら、240メートル!!)

② コップのノミはびんびん出てしまう。
ところが、である。⑥ あることをすると、再びノミは跳べるようになる。

③ フタもすると出られない。
それは... ⑦ 他のノミをコップに入れよること。

④ 次第に、フタにぶつからないよう工夫し始める。
そうか、オレ!! 跳べるんだ!!

⑤ フタをあけても、なぜかコップの高さしか跳べなくなっている。
人間も、跳べる人の近くにいと、いつか自分も跳べるようになるのかもね。

これが「ノミの法則」

人間も同じ!
ムリだと限界を決めると、本当にムリになるのだ!

編集後記



☆また春を迎えることができ感謝です(は)
☆公民館一年間通して勤務できました。二年目は更に飛躍!(あ)
☆晴れてフツのおばさんに、いざ戻ります! 変身~!(は)
☆うわ、またやられた! 自転車のカゴにちよつと放置したレジ袋、ごっそりカラスに持って行かれた。今度はウナギの匂いもしないのに、菓子パンも土産用のお菓子も箱ごとスタスタに切り裂かれ、残ったのは割れた卵と牛乳のみ。
チクショー!(楽)
☆ミラノ・コレティナ冬季オリピック&パラリンピック、サムライJAPAN。堪能した。(月)



↑カラー版はこちらから